（別紙２）

審査の結果の要旨

氏名　大塚行誠

本論文はミャンマー連邦のティディム・チン語の口語体の、主に音韻、形態、統語を対象とする記述的研究である。「第１章 本論文の概要」は本論文の目的、構成、調査の方法、及び、先行研究などを示す。「第２章 ティディム・チン語の概要」はこの言語の系統、地域、話者数、呼称、文字、社会的背景、文化的背景を示す。この言語はシナ・チベット語族の北部チン語群に分類される。「第３章 音韻論」は音素、声調素、借用語に見られる特殊な音素、イントネーション、形態音韻論についての分析を示し、表記法を提示する。「第４章 品詞論」は以下の品詞を設定する：名詞類、動詞類、副詞、助詞、間投詞。特に、名詞類の拘束形名詞（総数は１４）と動詞類の助動詞（総数は１５）の意味と用法を詳細に記述する。「第５章 形態論」は名詞類の屈折と派生、動詞類の屈折と派生と副詞の派生（屈折は無い）を詳細に記述する。一つの動詞に語幹形式Ｉと動詞に語幹形式IIの、二つの形があり、現れる環境によって使い分けることを指摘する。「第６章 統語論Ｉ句」は名詞句の構造、動詞句の構造、副詞句の構造を記述する。特に、動詞句について動詞修飾助詞（総数は６２）の意味と用法を詳細に記述する。助詞の１種、副助詞（総数は１５）は名詞句にも、動詞句にも付くことができる。その意味と用法も、この章で記述する。「第７章 統語論 II 節」はまず節の構成要素を挙げる。次に節を以下のように分類する：(i) 主節、従属節、(ii) 自動詞節、他動詞節、(iii) ゼロ項節、１項節、２項節、３項節。更に６つの態を設定する。「第８章 統語論 III 文」は平叙文、疑問文、命令文、その他の文（挨拶文、勧奨文、祈願文）の用法を記述する。特に、疑問文の記述は詳細である。次に、情報構造（主題、焦点）について述べた後、終助詞の談話における用法を記述する。結語は本論文を概観し、今後の課題を示す。附録として、テキスト（総数は３）とかなり詳しい語彙などが付いている。

本論文は改善の余地はある。例えば、論文の始めに言語の概略を示してないこと、音韻の章の始めに音韻の概略を示していないこと、格として具格を設定していないことである。

しかしながら、本論文は、ティディム・チン語の音韻、形態、統語について、非常に詳細で、かつ、水準の高い記述と分析を提示した。北部チン語群の言語について、本論文ほど包括的かつ詳細な記述は他には無い。言語の記録としての価値も高い。

以上の理由により、審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するに十分値するものと判断する。